



みんなの歌声でつなぐ笑顔と心 ♪

ホールいっぱい歌声を響かせ、心をつなぐ「第2回スマイル大合唱フェスティバル」が18日、東京芸術劇場（東京都豊島区）で開催された。写真（鈴木健児撮影）。「荒城の月」「七つの子」などを歌うのは、オペラ歌手で平成26年に急逝した中島啓江さんが呼びかけて結成された「スマイル合唱団」。「みんなで笑顔で歌って元気になろう」を合言葉に首都圏で約300団体、6千人が活動している。

高砂スマイル合唱団（同葛飾区）の田村弘子さんは「息子と母を亡くしてすぐに入団し、みんなで歌うことで元気になります」とほほ笑む。24年からは東日本大震災の被災地でも活動を展開し、田村さんも宮城県南三陸町を2度訪れた。

同町から41人が会場に招かれ、壇上で歌声を披露。「夢のような時間」と口々に歓喜の声が漏れる。同町社会福祉協議会で仮設生活者の支援事業を行うピアノ教師の高橋信子さんは「コミュニティづくりには合唱はととてもすきなツール。心の復興を始めていただいています」と思いを語る。

童謡や唱歌などを通じ、日本語の美しさや日本の心を伝えている声楽家の安田祥子さんは、中島さんの遺志を継いで合唱団の応援団長を務める。「先人が残した日本の歌は情景と言葉と 생각이一つになり、胸の中にある本当に大切なものを思い起こさせます」と満員の会場に心を寄せていた。（谷口康雄）